

平成 30 年度

順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科 修士論文

高校生・大学生の柔道競技継続に関する研究

学籍番号 4117046

氏名 石原 智恵子

研究指導教員 菅波 盛雄

論文指導教員 菅波 盛雄

合格年月日 平成 31年 2月18日

論文審査員 主査 廣津信義

副査 牛尾直行

副査 菅波 啓雄

目次

第1章	諸言	1
第2章	研究目的	2
第3章	文献考証	3
第1節	先行研究の検討	3
第1項	スポーツ活動からの離脱	3
第2項	スポーツ活動の継続	3
第2節	本研究の意義	4
第4章	研究スキーム	5
第5章	柔道人口の実態調査と将来予測 [I]	6
第1節	調査の対象	6
第2節	柔道人口の趨勢	6
第3節	柔道人口の将来予測	6
第4節	柔道人口予測のまとめ	7
第6章	質問紙の設計から完成まで [II III IV]	8
第1節	質問紙の設計	8
第2節	予備調査の対象	8
第3節	質問紙の信頼性の確認	8
第4節	質問項目の追加と補正	8
第7章	アンケート調査と集計 [V VI]	10
第1節	アンケート依頼と回収状況	10
第2節	現在の学年分布	10
第3節	柔道継続意思	10
第4節	柔道開始時期	11
第5節	柔道開始場所	11
第6節	柔道滞在年数	11
第8章	アンケート調査と集計 [VII]	12
第1節	柔道開始理由	12
第2節	柔道継続理由	12

第3節	柔道を通して得たもの	12
第4節	自身の性格	12
第5節	他者から見た自身の性格	13
第9章	柔道継続要素の抽出 [Ⅷ]	14
第1節	信頼性分析	14
第2節	柔道継続要素の抽出方法	14
第3節	被抽出項目のグループ化	15
第10章	結論	17
文献表		
謝辞		
英文要約		
図表		
質問紙		

第1章 諸言

日本傳講道館柔道（以下、柔道）は、1882年、我が国において嘉納治五郎により創始された歴史ある身体運動文化である。1964年になると柔道がオリンピック種目として採用されることとなった。これは、嘉納治五郎がアジア初のオリンピック委員になったこともあり、1938年79歳で没するまで生涯12回も海外に渡り柔道の普及発展に努め、その後も方向性を受け継いだ弟子達によって国際普及が推し進められた結果である⁸⁾。

このように、様々な先人達により普及発展してきた柔道であるが、2003年から2017年の全日本柔道連盟の登録人口推移によると、柔道界の明日を担う中学生・高校生・大学生の柔道人口の減少が窺える。

現在日本では、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを控え、国民のスポーツへの関心が高まっており、柔道界においても金メダル獲得に向けた多くの取り組みがなされている中で、柔道人口が減少するという事は、非常に残念な現象である。

この現象に対し、当初は少子化の影響や指導者不足により公立中学校の柔道部が減少していることで、学童期まで柔道に携わっていても中学校入学を機に他のスポーツへ転向してしまうのではないかと推測した。しかし、アンケート調査を実施するにあたり、2度の予備調査を行う中で、青年期まで柔道を継続している者は、柔道の開始時期が小学校入学前と答えた者が多く、地元公立中学校の柔道部の有無に関係なく柔道継続環境が存在していることがわかった。

また、日本の柔道人口が約20万人（2017年日本人口1億2,680万人中）に対し、フランスの柔道人口は80万人（2017年フランス人口6,712万人中）であることから、日本における柔道人気の低迷も否定できない。

そこで、高校及び大学（以下、青年期と略す）において柔道競技を継続している者は、どのような意識を持ち、いかなる環境において柔道に取り組み、どんな将来像を描いているのか、柔道継続に導く要因を明らかにしたいと考えた。

第2章 研究の目的

本研究は、青年期において柔道を継続している者の背景、意識や将来像、環境などの柔道継続に導く要因を明らかにし、柔道人口の確保・増加に繋がる方針を策定する際の資料として、広く柔道界において参照されることを期待したい。

第3章 文献考証

本章では、先行研究の検討を行ったのち、本研究の意義について述べる。

第1節 先行研究の検討

第1項 スポーツ活動からの離脱

稲地と千駄²⁾は、中学生の運動部活動退部者の因子として、部の統率力・活動性・計画性などの「部機能の低下」、技能が向上せずレギュラーになれなかったという「技能向上の停滞」「非レギュラー」が挙げられると述べている。

また、青木¹⁾は、高校生の運動部活動の退部理由として、「人間関係のあつれき」、「練習の辛さ」、「勉強との両立」、「他にしたいことがある」などが見出されたと述べている。また、第一理由だけで退部する者は少なく、いくつかの理由が強弱はあるものの相互的に影響していると述べている。常浦と高岡⁷⁾、横田⁹⁾は部活動の退部について報告している。

さらに、中須賀と坂田⁴⁾によれば、中学校と大学の運動部では、選手同士互いに承認しあえるような雰囲気作りが肯定的競技引退観を促し、高校の運動部では、自分たちで決めた部のルールを厳守できるような雰囲気作りが肯定的競技引退観を促すという。

加えて、霜田⁵⁾によれば、練習の厳しさは大学卒業後のスポーツ継続意図に負の影響を持っていると述べている。

第2項 スポーツ活動の継続

先の青木¹⁾は同じ論文の中で、高校運動部員について感動があり、指導者への満足度を覚えるような運動部での活動は継続を促す傾向にあるという。

また、射手矢ら³⁾の研究によると、柔道場に通っている18歳から80歳までの男子柔道実践者がこれまで柔道を続けてきた理由の背後にある要因は、因子分析の基本方程式に現れる相関行列の固有値が大きい順に「人間形成」、「格闘技への好奇心」、「好感情」、「体力の向上」、「精神性の向上」であるとしている。

さらに、先の霜田⁵⁾は同論文のなかで、大学スポーツ集団において、「部員同士の信頼関係」が、直接卒業後のスポーツ継続意図にプラスの影響を与えるとともに、間接的にも「部員

同士の信頼関係」が「スポーツコミットメント」を媒介してスポーツ継続意図にプラスの影響を与えることを明らかにしている。

第2節 本研究の意義

運動部には、野球部、サッカー部、テニス部、バレーボール部、陸上部、柔道部、剣道部などさまざまな競技種目が存在する。種目を柔道に絞ったものとして射手矢ら³⁾の報告があるが、調査対象のなかに、減少が懸念される中学生と高校生が入っておらず、大学生がいるであろうがどの程度含まれているか不明である。

スポーツ活動からの離脱については、前節第1項で触れたように様々な角度から考究されているので、ここで改めて運動部（とりわけ柔道部）を退部した人を探し出し退部理由を尋ねるといった作業はしないこととした。

スポーツ活動の継続に関しては、今日まで当該スポーツ活動を続けてきた理由を問うものが多い一方で、今後継続するかどうかを尋ねるものは少ない模様である。

これまで柔道を続けてきた高校柔道部員と大学柔道部員に、今後の継続意思を尋ねたうえで、柔道継続を支える要因を検出するような先行研究は見当たらなかった。

本論文のタイトルを「高校生・大学生の柔道継続に関する研究」とした所以である。

なお、物理的・時間的制約から中学柔道部員に対するアンケート調査は行わなかった。

また、本研究に際してのアンケート調査は、順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科研究等倫理審査委員会の承認を得たのち実施した。

第4章 研究スキーム

下記のとおり段階的に研究・調査を実施した。

- I 全日本柔道連盟の登録データより、柔道人口の推移を調査。それに基づき将来の柔道人口を予測。
- II 青年期まで柔道を継続している者の背景、意識や将来像、環境などの柔道継続に導く要因を検知するための質問紙の作成。
- III 信頼性の高い質問紙を作成するため2度にわたる予備調査を実施。
- IV 予備調査の結果を踏まえ、質問項目の追加と補正。
- V 東京学生柔道連盟に加盟している大学・短大の柔道部に所属する学生と、高校の柔道部に所属する生徒を対象としたアンケートを実施。
- VI 高校・大学の選手達の背景並びに今日まで柔道を継続できた理由などを内容とするアンケート回答票のデータベース化と集計。
- VII 今後の柔道人口の確保・増加に繋がる柔道継続要素を統計分析により明確化。

第5章 柔道人口の実態調査と将来予測 [I]

本章では、全国の柔道人口の減少実態を把握するとともに、将来の柔道人口の予測も行う。柔道人口減少の原因については、少子化による影響が大きいいため当然将来も減少していくものと解釈しており、その確認のため過去15年間の推移を調べた。

第1節 調査の対象

小学生・中学生・高校生・大学生を対象とし、全日本柔道連盟ホームページにアクセスし、2003年から2017年までの15年間の学制別性別登録データを入手した。

なお、全日本柔道連盟に登録していない人達、いわゆる柔道潜在人口の把握は出来ないが、全国の柔道場数が3,962(1996年)、3,617(2002年)、3,449(2008年)、3,352(2015年)と年を追うにつれ減少していることから、当該人口が増加しているとは考えにくい。

したがって、今後柔道人口と言えば全日本柔道連盟の登録者を指す。

第2節 柔道人口の趨勢

小学生の柔道人口は2014年以降3万5千人台を保っている一方、中学生の柔道人口は2007年以降、高校生の柔道人口は2004年以降、そして大学生の柔道人口は2013年以降減少の一途を辿っている(表5.1)。このことから、柔道人口の減少は、少子化の影響のみならず、柔道人気の低迷も一因であることが窺える(図5.1、5.2、5.3、5.4)。

第3節 柔道人口の将来予測

全日本柔道連盟の登録データに基づき、向こう5年間の中学生・高校生・大学生の柔道人口を予測するために、最小二乗法による回帰分析を行った。その結果、2017年から5年後の2023年には、68,394名から約1万5千名少ない5万3千名程度になるものと想定される(表5.1・図5.1、5.2、5.3、5.4)。

因みに、柔道人口予測式は下記のとおりである。式中の x は西暦年から2000を差し引いたもの(例:2021年ならば $x=21$)で、2018年以降有効である。また、式の右側の()内は、当該期間のデータを用いて予測式を導いたことを示す。これらが区々なのは、実測グラフと予測グラフがスムーズに繋がるように工夫したためである。

小学男子：51453.3-2537.26 x + 59.8749 x² (2006年～2017年)

小学女子：17804.5-1029.96 x + 29.8494 x² (2006年～2017年)

中学男子：42442.4-1001.21 x (2009年～2016年)

中学女子：11395.6-210.679 x (2009年～2016年)

高校男子：32973.1-878.567 x (2009年～2017年)

高校女子：5821.79-92.5143 x (2012年～2017年)

大学男子：16137.0-329.571 x (2011年～2017年)

大学女子：1346.74 +263.813 x -10.2316 x² (2003年～2009年, 2014年～2017年)

第4節 柔道人口減少予測のまとめ

全日本柔道連盟の登録データに基づき 2011年から2017年までの7年間の高校柔道人口対中学柔道人口比を求めると、順に69%、69%、68%、69%、67%、68%、68%となる。また、この7年間の中学平均柔道人口は36,917名、高校平均柔道人口は25,210名で、両者の差は11,707名である。

これは、中学柔道競技者のうち、率にして約3割、人数にして約1万2千名が高校に進学しても“柔道競技を継続しないこと”を意味する。なお、この率や人数は、高校に入学してから柔道を開始した者もいることを考慮すれば、実際にはもっと率は高く、人数も多いはずである。

少子化の影響を受け、子供の数が減少していることもあるが、小学生の柔道人口がほぼ横ばいであることから、中学校入学時から中学校卒業時までの期間の柔道環境や柔道継続意欲が、今後の柔道継続を左右するのではないかと考える。

第6章 質問紙の設計から完成まで [II III IV]

本章では、青年期まで柔道を継続している者の背景、意識や将来像、環境などの柔道継続に導く要因を明らかにするための質問紙の作成、2度の予備調査を経て質問項目の追加・修正を行った質問紙の信頼性の確認、本調査用の質問紙の作成について述べる。

第1節 予備調査用質問紙の設計

質問内容は、自身の柔道経験および複数の柔道専門家の意見を参考にして定めた。

「問1. 性別」、「問2. 現学年」、「問3. 柔道開始時期(9 カテゴリー)」、「問4. 柔道開始場所(6 カテゴリー)」、「問5. 柔道開始理由16項目」、「問6. 柔道継続理由22項目」、「問7. 柔道から得たもの18項目」、「問8. 自分自身の性格22項目」、「問9. 周囲が見た自分の性格22項目」、「問10. 今後も柔道を続けるか」である。

なお、問5から問9まで(以下、「意識質問群」という)の各項目の回答肢は、“大いに当てはまる”、“当てはまる”、“当てはまらない”、“全く当てはまらない”の4カテゴリー(4件法)とした。

第2節 予備調査の対象

A 大学柔道部部員延べ100名に予備調査への協力を依頼した。

第3節 質問紙の信頼性の確認

予備調査の回答票の意識質問群について、信頼性の度合いを表す標準化されたクロンバックのアルファ(0.7乃至0.8以上であれば信頼性に問題はないと判断される)は、問5:0.76、問6:0.82、問7:0.91、問8:0.81、問9:0.83であったことから、作成した質問紙の信頼性には問題がないと判断した(表6.1)。

第4節 本研究用質問紙の作成

予備調査用の質問紙から追加・修正したものは、以下のとおりである。

- 1) 「問10. 今後も柔道を続けたいか」に“はい”と答えた人向けに「問11. 少なくとも何年位続けたいか」を新規に追加

- 2) 「問3. 柔道開始時期(9 カテゴリー)」であったものを「問3. 柔道開始時期(14 カテゴリー)」に変更
- 3) 「問7. 柔道から得たもの18項目」のなかの1項目“希望する会社に就職できた”を“将来像が明確になった”に置き換え

以上の追加・補正を経て作成したものを本研究用の質問紙として使用することとした(資料)。

第7章 アンケート調査と集計 [V VI]

本章では、現在柔道を継続している高校生・大学生を対象を絞ったアンケートを実施するところから回答の集計までを述べる。

第1節 アンケート依頼と回収状況

回収状況について、大学・短期大学（以下、「大学」という）に関しては、東京学生柔道連盟（会長：白瀬英春先生）に加盟している48校の柔道部監督にアンケート協力を依頼し、18校より承諾を得ると同時に512名の回答が寄せられた（表7.1）。

また、高校については、10校の柔道部監督にアンケート協力を依頼し、8校より承諾を得ると同時に172名の回答が寄せられた。

有効回答者数は、大学で486名、高校で166名、両者合わせて652名であった。今後は、有効回答者のデータを集計や統計分析の対象とする。

なお、アンケートは2018年5月から9月にかけて実施した。

第2節 アンケート回収時点の学年分布

大学生は学年が上がるにつれ人数が少なくなっている。高校生について、1・2年は変わらないが3年生は少ない（表7.2）。

第3節 柔道継続意思

(1) 少なくとも卒業までは継続・非継続の場合

大学男子・大学女子・高校男子・高校女子それぞれの“少なくとも卒業までは柔道を継続する”と回答したものの割合（標本比率）は、順に90.5%、85.3%、94.9%、100%であって4者間には、かなり差があるように見える（表7.3）。母比率についても同様なことが言えるかどうかを調べるために、独立性の検定を行った。その結果、有意水準5%で等母比率の仮説は棄却できないことが分かった。なお、今後「継続」と言えば、「少なくとも卒業までは継続」を意味する。

(2) 卒業後も継続・非継続の場合

大学男子・大学女子・高校男子・高校女子それぞれの“卒業後も柔道を継続をする”と回答したものの割合（標本比率）は、順に52.3%、38.6%、58.0%、55.6%であって大学女子は他に比

べかなり低いように見える（表 7.4）。母比率についても同様であるかを調べるため独立性の検定を行った結果、有意水準 5% で等母比率の仮説は棄却されることが分かった。

なお、対象高校生のうち卒業後も継続する者の占める割合 $\frac{91+5}{157+9}=0.578$ であった。一方、

2017 年の $\frac{\text{大学柔道人口 } 12876}{\text{高校柔道人口 } 22564} = 0.571$ であったことから、アンケート回答結果は実態をかなりな精

度で反映していることは興味深い。

第 4 節 柔道開始時期

卒業後継続者全体（340 名）の内の 65%（221 名）が早期（小学校 2 年時以前）開始している（表 7.5）。また、卒業後非継続者全体（312 名）の内の 58%（180 名）が早期（小学校 2 年次以前）に開始している。早期開始と卒業後の継続・非継続は無関係といえる（独立性の検定：カイ二乗値 13.049, 有意確率 0.1102）。

第 5 節 柔道開始場所

卒業後継続者全体（340 名）の内の 82%（278 名）が開始場所を町道場としている（表 7.6）。因みに、卒業後非継続者全体（312 名）の内の 75%（235 名）が開始場所を町道場としている。柔道開始場所（町道場を除く）卒業後の継続・非継続は無関係といえる（フィッシャーの直接確率法：正確確率 0.9036）。

第 6 節 柔道滞在年数

柔道滞在年数とは、柔道開始時点から柔道競技離脱までの年数を指す。

大学生と高校生の平均値の差は 5.9 年、中央値の差は 6 年で、大学生の方が高校生よりも柔道滞在年数は長い。（表 7.7）

第8章 アンケート調査と集計 [VII]

表8.1はアンケート調査結果を集計したものである。各項目について、大学生と高校生の回答が「大いに当てはまる」、「当てはまる」であったものの合計を総回答者数で除しそれを肯定率として算出した。以下に例を示す。

例：「家族に勧められて」大学：大いに当てはまる：209、あてはまる：86、高校：大いに当てはまる：64、あてはまる：18、合計377、総回答者数：652、とした場合

「家族に勧められて」の肯定率は、 $377/652 \times 100$ は57.8%である。

第1節 柔道開始理由

表8.1に示すとおり柔道を開始した理由全15項目について尋ねた。作表の都合上、項目全部を入れることができなかった。（質問紙参照）

柔道を始めた主な理由の上位2つは、「508 家族に勧められて58%」、「506 強くなりたかった56%」であった。

第2節 柔道継続理由

柔道をこれまで継続してきた理由全21項目について尋ねた結果、「607 家族が応援してくれる88%」、「606 仲間同士の関係が良い88%」、「610 目標としている選手がいる88%」などであった。このほかにも肯定率の高い項目が多く見られた。

第3節 柔道を通して得たもの

柔道をこれまで継続してきたことにより得たもの全17項目について尋ねた結果、「701 筋力96%」、「717 周囲への感謝の気持ち94%」、「705 精神力94%」であった。これら体力・精神力に関して肯定率の高い項目がみられた。また柔道をとおしての成長を窺わせる項目も多く見られた。

第4節 自身の性格

柔道をこれまで継続している者は、自身の性格をどのように捉えているのか全21項目について尋ねた結果、「803 優しい・穏やか76%」、「806 負けず嫌い77%」、「820 素直75%」と答えていた。

第5節 他者から見た自身の性格

前節同様全21項目、自身の性格が周囲からどのように見られているのかについて尋ねた結果、「903 優しい・穏やか76%」、「907 思いやりがある71%」、「919 人付き合いが良い（社会的）69%」であった。

第9章 柔道継続要素の抽出 [Ⅷ]

第1節 信頼性分析

アンケート項目と尺度の信頼性を表す標準化されたクロンバックのアルファは、第6章の第3節の予備調査の箇所でその値を示した。しかし、本研究用の質問紙を使用したことにより、次のように変わった。問5:0.84、問6:0.89、問7:0.93、問8:0.89、問9:0.91(表9.1)。

このことから、アンケート項目の設定と尺度の設定(4件法)は適切であることが確認された。

第2節 継続要素の抽出方法

表9.2は次のすべてを満たす項目を柔道継続要素として抽出したものである。なお、有意確率はすべて指数表示してある(例:0.0074は7.4e-3と表記)。

- 1) 表側(行)を「継続する・継続しない」(2カテゴリ)とし、表頭(列)を当該項目の回答「全く当てはまらない」、「当てはまらない」、「当てはまる」、「大いに当てはまる」(4カテゴリ)とする2×4分割表の独立性の検定において、有意確率が5%未満であったもの。

2x4 分割表の一例 項目名:柔道が好き

回答	大いに当てはまる	当てはまる	当てはまらない	全く当てはまらない
継続する	201	115	19	5
継続しない	84	149	47	32

クラメールの連関係数=0.341

なお、カイ2乗検定統計量の値(カイ2乗値)を表の1列目、有意確率を2列目に示す。

- 2) 目的変数を「滞在年数」、説明変数を当該項目の回答「1(全く当てはまらない)、2(当てはまらない)、4(当てはまる)、5(大いに当てはまる)」とする単回帰分析において、標本回帰係数が正でありかつ母回帰係数の有意確率が5%未満であったもの。なお、全データの母回帰係数の有意性検定統計量の値(t値)を3列目、有意確率を4列目に示す。
- 3) 対象を柔道継続者に限定したうえで、目的変数を「滞在年数」、説明変数を当該項目の回答「1(全く当てはまらない)、2(当てはまらない)、4(当てはまる)、5(大いに当てはまる)」とする単回帰分析において、標本回帰係数が正でありかつ母回帰係数の有意確率が5%未満であったもの。なお、全データの母回帰係数の有意性検定統計量の値(t値)を3列目、有意確率を4列目に示す。

はまる)」とする単回帰分析において、標本回帰係数が正でありかつ母回帰係数の有意確率が5%未満であったもの。なお、母回帰係数の有意性検定統計量の値(t 値)を5列目、有意確率を6列目に示す。

第3節 被抽出項目のグループ化

抽出された項目を自身の柔道経験および柔道専門家の意見に基づき数個のグループ(要素群)に分け、それぞれに要素群名をつけた。群名とそれに所属する項目は次の通りである。

1) 【柔道愛好要素群】

- ・柔道が好き
- ・練習が楽しい
- ・もっと強くなりたい

2) 【柔道到達目標要素群】

- ・目標にしている選手がいる
- ・柔道を活かせる職業に就きたい
- ・昇段したい
- ・出場したい大会がある
- ・目指しているタイトルがある
- ・指導者になりたい
- ・審判員になりたい
- ・将来像が明確

3) 【柔道内的環境要素群】

3-1) 【家族支援要素群】

- ・家族が応援してくれる
- ・家族との絆

3-2) 【周囲との融和要素群】

- ・指導者との絆
- ・仲間との絆
- ・指導者を尊敬している

4) 【動機づけ要素群】

- ・家族に勧められて
- ・強くなりたかった
- ・家族が柔道をしていた
- ・近所に柔道場があった

5) 【覇気明確要素群】

- ・気が強い（自身と周囲からの評価）
- ・プレッシャーに強い（自身と周囲からの評価）
- ・負けず嫌い（自身と周囲からの評価）
- ・集中力がある（自身と周囲からの評価）
- ・我慢強い（周囲からの評価）

柔道継続を促す要素群との関係を描いたのが図9.1である。

第10章 結論

本研究により、青年期まで柔道を継続している者は、

1. 「柔道が好き、練習が楽しい、もっと強くなりたい」という柔道愛好要素を持っている
2. 「目標にしている選手がいる、柔道を活かせる職業に就きたい、昇段したい、出場したい大会がある、目標としているタイトルがある、指導者になりたい、審判員になりたい、将来像が明確」などしっかりした目的・目標をもって柔道に取り組んでいる
3. 「家族が応援している、家族との絆がある」という絶対的な安心感があり、「指導者との絆がある、仲間との絆がある、指導者を尊敬している」という柔道環境における精神的な支えがある。(これらを柔道内的要素と呼ぶ)
4. 「家族に勧められて、強くなりたかった、家族が柔道をしていた、近所に柔道場があった」などの家族の影響や住居の立地環境、選手自身の思いが柔道開始の動機となっている
5. 競技時に発揮されるべき「気が強い、プレッシャーに強い、負けず嫌い、集中力がある、我慢強い」という性格を有している、

ということが明らかになった。

特に柔道愛好要素にある「柔道が好き」「練習が楽しい」という感情は、柔道継続要素に大きく影響していた。この感情を与え柔道を継続してもらうためには、柔道内的要素は非常に重要であると考え、子供の感情を考慮しない厳しい指導では「柔道が好き」という感情は生まれるはずはなく、柔道継続意欲はいずれ消失してしまう可能性が高いと示唆される。すなわち柔道を嫌いにさせてしまっただけでは、柔道継続意欲は湧くはずがないのである。

本研究において、家族・指導者・仲間との絆を深め「柔道が好き」な子供達を育成することができれば、柔道に対する目的や目標が芽生え、柔道継続意欲に繋がるということが明らかになった。

文献表

- 1) 青木邦夫 (2000) 「高校運動部員の部活動継続と退部に影響する要因」 体育学研究, 34 巻 1 号 89-100
- 2) 稲地裕昭、千駄忠至 (1992) 「中学生の運動部活動における退部に関する研究：退部因子の抽出と退部予測尺度の作成」 体育学研究, 37 巻 55-68
- 3) 射手矢岬, 村田直樹, 高橋進, Thierry COLIN (2011) 「柔道実践者の継続理由に関する研究」 武道学研究, 44-(1):13-23
- 4) 中須賀巧, 坂田俊輔 (2016) 「学校運動部活動における肯定的競技引退観を促すチームの動機づけ雰囲気の特徴」 笹川スポーツ研究助成 286-293
- 5) 霜田知佳 (2016) 「大学スポーツ集団における組織風土がスポーツの満足度及び継続意図に及ぼす影響」 早稲田大学大学院 スポーツ科学研究科 修士論文
- 6) 田中裕之 (2018) 「柔道を『続けよう』『始めよう』－ (公財) 全日本柔道連盟の普及啓発活動－」 月間柔道 12 月号 168-177
- 7) 常浦光希、高岡敦史 (2016) 「運動生活の成立条件に関する再検討～運動生活者による意味づけの視角から～」 体育・スポーツ経営学研究 29 巻 1-20
- 8) 山口香/監修 (2009) 「柔道で磨く“心技体” 中学生と指導者のための武道・体育シリーズ 2 柔道」 ベースボール・マガジン社
- 9) 横田匡俊 (2002) 「運動部の継続及び中途退部にみる参加動機とバーンアウトスケールの変動」 体育学研究, 47 巻第 5 号 427-437

謝辞

本論文作成にあたり、熱心なご指導を頂いた論文指導教員の菅波盛雄教授に心からお礼を申し上げます。仕事と学業の両立が困難で挫けそうになった時や初めての論文執筆で苦手な統計学に苦悩している時、「なんとしても一緒に卒業するんだぞ!」と、根気強く励ましてくださったことで2年間を乗り越えることができました。また、菅波先生と取り組んだ研究は柔道界に貢献するものとなりますが、菅波教授なくしてこの論文はあり得なかったと思います。今後、少年柔道指導の場においてこの経験を活かし、菅波教授のような温かい指導者になれるように努力して行きます。

アンケート調査に関し、多大なご協力を賜った短大・大学18校、高校10校の先生方並びに柔道選手各位に深く感謝の意を表します。

英文要約

The Continuation of Judo Practice in High School and University Students

Chieko Ishihara

Abstract

The purposes of this paper were to find factors closely related to the continuation of judo practice based on students' responses to our questionnaire on their backgrounds, consciousness, vision and setting, and to be widely referred in judo world for mapping out a plan for the increase in the number of judo practitioners.

At the changes of membership of All Japan Judo Federation which includes almost all domestic judoists, the membership of students in junior high schools, senior high schools and universities shows a rapid decrease year by year. Assuming that the tendency persists henceforth, total number of the above students in 2023 is estimated to be c. 53,000; about that of 15,000 fewer than 68,394 in 2017.

The motives, reasons or factors for withdrawal from sports club activity have been studied by many researchers.¹⁻⁸⁾

Limiting to students, as to those of junior high schools, Inaji and Senda²⁾, Nakasuga and Sakata⁴⁾ dealt with the motives for withdrawal; Aoki¹⁾, Nakasuga and Sakata⁴⁾ again described the reasons for withdrawal those of senior high schools; Shimoda⁵⁾ clarified the factors for withdrawal about those of universities.

Those distinguished papers stated the motives for withdrawal targeting at club members of sports which include athletics, baseball, football, judo, karate, kendo, tennis, volleyball and so on.

In contrast, we particularly focused on judo club students in senior high schools and universities to find the factors for long-term continuation rather than for withdrawal.

We collected 166 valid replies from eight high schools and those of 486 from eighteen universities to our request for questionnaire. As the factors tightly relevant to the long-term continuation in judo practice, we selected twenty-nine factors from those of 100 with the aid of the hypothesis testing of independence and the multivariate analyses to classify into several factor groups : judophile, definite goal, internal setting (support by family and harmony with all the people around), motivation and robust mind. Factor group of judophile, the most influential one, consisted of “I love judo”, “Judo practice is much fun”, and “I want to be much stronger”.

The relationships among long-term continuation and several factor groups are schematically shown in Figure 9.1.

key words: judo, continuation, factor, the obtained, judophile

図表

表5.1 全日本柔道連盟登録人口推移

単位：名

年	区分	小学男子	小学女子	中学男子	中学女子	高校男子	高校女子	大学男子	大学女子	中高犬男女計
2003	登録者数	36704	11654	39680	11597	31925	6641	10674	2125	102642
2004	登録者数	35925	11587	37448	11037	31868	6564	11427	2257	100601
2005	登録者数	37289	12395	37686	10944	30901	6425	11954	2332	100242
2006	登録者数	37363	12478	38126	10780	29379	6051	12016	2523	98875
2007	登録者数	36732	12084	37273	10508	27377	5644	12751	2615	96168
2008	登録者数	35622	11645	35550	10043	26183	5426	12854	2806	92862
2009	登録者数	34071	11043	33342	9451	24932	5189	12426	2956	88296
2010	登録者数	33039	10670	31927	9327	24340	5144	12726	3287	86751
2011	登録者数	30934	10106	31902	9126	23542	4895	12090	3172	84727
2012	登録者数	29156	9707	30885	8931	22537	4754	12269	3252	82628
2013	登録者数	28152	9361	29410	8553	21255	4552	12084	3295	79149
2014	登録者数	26665	9011	28209	8464	20665	4569	11624	3079	76610
2015	登録者数	26358	8959	27360	8128	19401	4390	11611	3037	73927
2016	登録者数	26290	8981	26383	8117	18988	4359	10896	2983	71726
2017	登録者数	26499	9114	25119	7835	18306	4258	10087	2789	68394 (A)
2018	予測人数	25182	8936	24421	7603	17159	4157	10205	2780	66325
2019	予測人数	24860	9011	23419	7393	16280	4064	9875	2666	63697
2020	予測人数	24658	9145	22418	7182	15402	3972	9546	2530	61049
2021	予測人数	24576	9339	21417	6971	14523	3879	9216	2375	58381
2022	予測人数	24613	9592	20416	6761	13645	3786	8886	2199	55693
2023	予測人数	24770	9906	19415	6550	12766	3694	8557	2002	52983 (B)
										(A)-(B)=15411

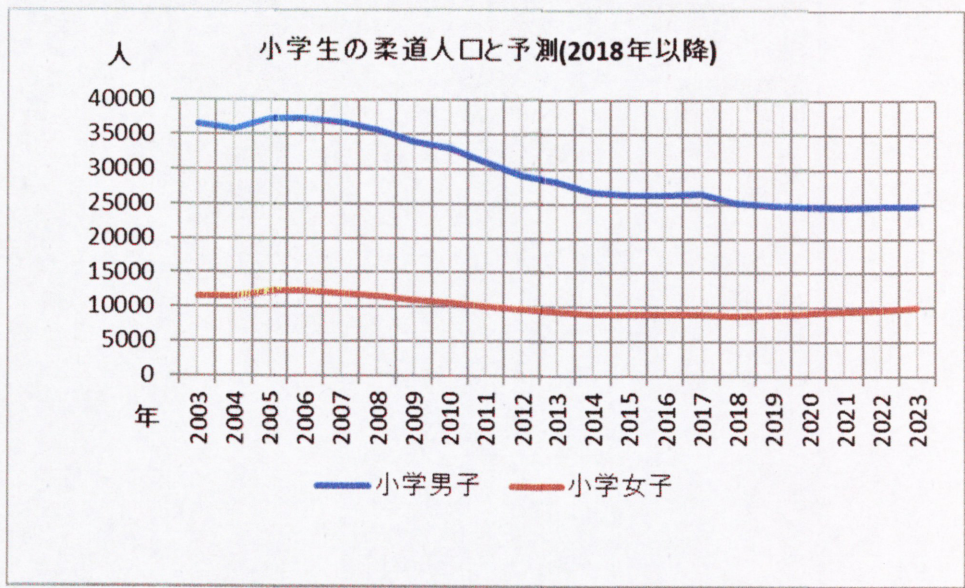


図 5.1 全日本柔道連盟小学生登録人口推移及び将来予測

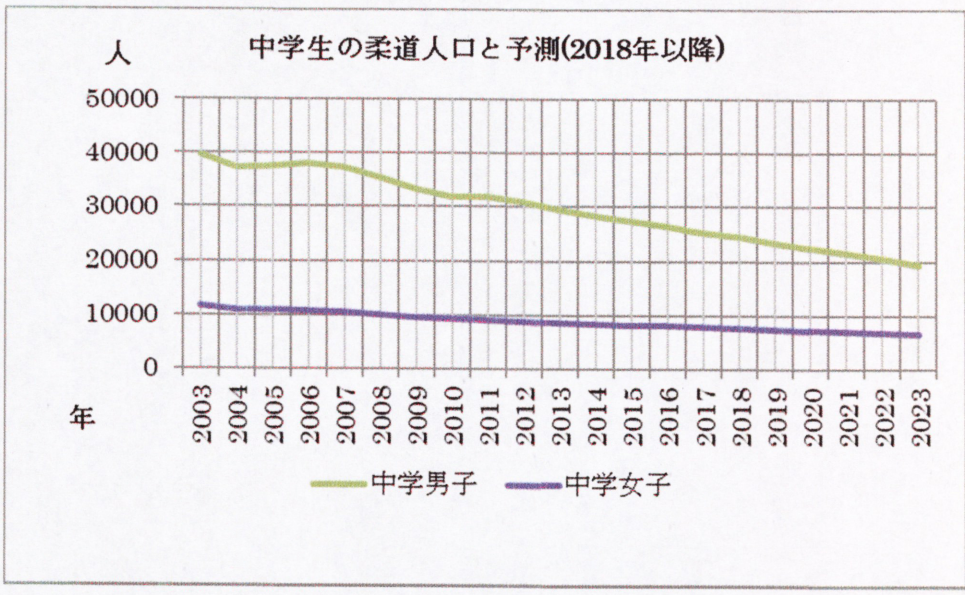


図 5.2 全日本柔道連盟中学生登録人口推移及び将来予測

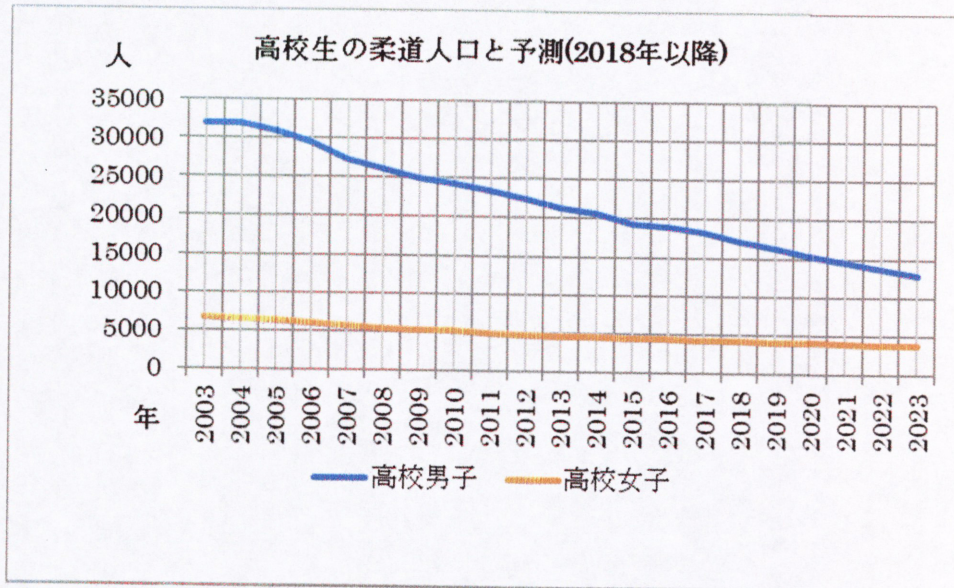


図5.3 全日本柔道連盟高校生登録人口推移及び将来予測

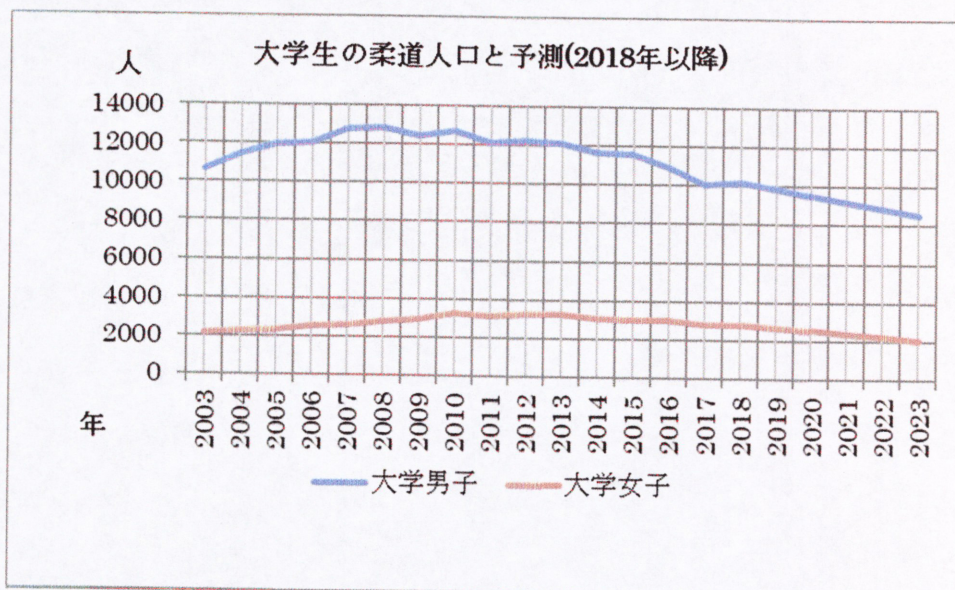


図5.4 全日本柔道連盟大学生登録人口推移及び将来予測

表 6.1 クローンバックの α 係数 (予備調査時)

			度数	%
問 5	ケース	有効数	91	91
		除外数	9	9
		計	100	100
	クローンバックの α 係数		0.78	
	標準化されたクローンバックの α 係数		0.72	項目数 13
問 6	ケース	有効数	96	96
		除外数	4	4
		計	100	100
	クローンバックの α 係数		0.88	
	標準化されたクローンバックの α 係数		0.87	項目数 21
問 7	ケース	有効数	99	99
		除外数	1	1
		計	100	100
	クローンバックの α 係数		0.85	
	標準化されたクローンバックの α 係数		0.96	項目数 17
問 8	ケース	有効数	96	96
		除外数	4	4
		計	100	100
	クローンバックの α 係数		0.79	
	標準化されたクローンバックの α 係数		0.86	項目数 21
問 9	ケース	有効数	95	95
		除外数	5	5
		計	100	100
	クローンバックの α 係数		0.87	
	標準化されたクローンバックの α 係数		0.82	項目数 21

表 7.1 アンケート回収状況

学校区分	回答学校数	回収数	有効回答数	有効男子数	有効女子数
大学・短大	18	512	486	411	75
高校	8	172	166	157	9
縦計	26	684	652	568(87.1%)	84(12.9%)

※ () は男女比

表 7.2 アンケート回収時点の学年分布

大学	1年	2年	3年	4年	計
男子	139	111	94	67	411
女子	24	20	15	16	75
計	163	131	109	83	486
高校	1年	2年	3年	計	
男子	57	57	43	157	
女子	2	2	5	9	
計	59	59	48	166	

表 7.3 柔道継続意思の分布 I

少なくとも卒業までは継続	大学男子	大学女子	高校男子	高校女子
する	372(90.5%)	64(85.3%)	149(94.9%)	9(100%)
しない	39	11	8	0
縦計	411	75	157	9

※()は標本比率

表 7.4 柔道継続意思の分布Ⅱ

卒業後も継続	大学男子	大学女子	高校男子	高校女子
する	215 (52.3%)	29 (38.6%)	91 (58.0%)	5 (55.6%)
しない	196	46	66	4
縦計	411	75	157	9

※ () は標本比率

表 7.5 柔道開始時期の分布

開始時期		大学生	高校生	卒業後も継続	卒業後は継続せず
小学	入学前	177	37	125	89
	入学時	111	24	72	63
	2年次	42	10	24	28
	3年次	36	9	24	21
	4年次	25	14	24	15
	5年次	14	11	11	14
	6年次	7	7	5	9
中学	入学時	33	44	35	42
	2年次	2	4	2	4
	3年次	1	0	0	1
高校	入学時	7	6	5	8
	2年次	1	0	0	1
	3年次	0	0	0	0
大学	入学時	30	0	13	17
縦計		486	166	340	312

表 7.6 柔道開始場所の分布

開始場所	大学生	高校生	卒業後も 継続	卒業後は継 続せず
町道場	405	108	278	235
地元公立校	32	39	30	41
学区外私立校	24	5	14	15
地元私立校	10	8	7	11
警察	4	3	3	4
学区外公立校	2	2	2	2
その他	9	1	6	4
縦計	486	166	340	312

表 7.7 滞在年数の分布

滞在年数	最小値	最大値	平均値	標準偏差	中央値	四分位偏差
大学男子	2	77	22.0	13.5	19	4.5
大学女子	4	72	19.6	12.8	17	4
大学総合	2	77	21.6	13.4	18	4.5
高校男子	1	72	15.5	12.7	12	5
高校女子	3	62	19.8	18.7	15	9
高校総合	1	72	15.7	13.1	12	5

表8.1 アンケート調査の全データの集計結果

区分	回答	501漫画	502TV有名芝	503柔道着姿	504腹身のた	505礼儀作法	506強くなり	507家族が柔	508家族に勤め			
大学	大いに当てはまる	16	33	28	31	69	99	202	208			
	当てはまる	22	63	50	73	103	171	43	86			
	当てはまらない	61	70	84	79	80	165	34	39			
	全く当てはまらない	387	320	324	303	234	51	207	153			
高校	大いに当てはまる	3	21	10	21	34	36	60	64			
	当てはまる	13	25	25	32	41	49	9	18			
	当てはまらない	24	24	37	33	28	55	8	25			
	全く当てはまらない	126	96	94	80	63	26	89	59			
区分	回答	509柔友勝負510友試合見511指導者勲512何か運動513近所に道514ダイエツ515将来進就職										
大学	大いに当てはまる	78	17	40	64	97	23	62				
	当てはまる	43	24	45	73	95	33	42				
	当てはまらない	56	48	56	60	55	46	54				
	全く当てはまらない	309	397	345	289	239	384	328				
高校	大いに当てはまる	21	4	12	36	31	9	24				
	当てはまる	12	7	19	27	24	9	31				
	当てはまらない	25	25	19	17	29	22	20				
	全く当てはまらない	108	130	116	86	82	126	90				
区分	回答	601柔道が好602練習楽し603もっと強く604体型の難605指導者寛606仲間関係607家族が喧608柔道活躍609既継続決610目標選手611目指タイ										
大学	大いに当てはまる	196	132	191	86	155	210	266	116	57	271	192
	当てはまる	204	133	97	128	168	216	159	192	74	147	139
	当てはまらない	53	84	90	124	80	31	35	126	124	43	69
	全く当てはまらない	33	137	108	148	83	29	26	52	231	25	86
高校	大いに当てはまる	89	80	56	33	101	100	108	47	32	121	85
	当てはまる	60	36	39	42	45	45	44	86	23	37	28
	当てはまらない	13	23	43	48	13	18	9	24	51	5	21
	全く当てはまらない	4	27	28	43	7	3	5	9	60	3	32
区分	回答	612出場大会613テレ新種614海外・療1615指導者希616道場の開617審判員成618昇段した1619形極めた620スポ推薦621途中やめず										
大学	大いに当てはまる	209	103	56	105	38	31	95	23	120	201	
	当てはまる	141	94	78	121	57	61	175	64	95	165	
	当てはまらない	58	112	141	101	158	144	95	141	88	62	
	全く当てはまらない	78	177	211	159	233	250	121	258	183	58	
高校	大いに当てはまる	100	37	14	14	6	8	33	13	43	81	
	当てはまる	28	32	17	32	17	16	48	16	39	51	
	当てはまらない	15	48	58	57	65	57	38	64	32	15	
	全く当てはまらない	23	49	77	63	78	85	47	73	52	19	
区分	回答	701筋力 702体力 703持久力 704忍耐力 705精神力 706粘強さ 707向上心 708積極性 709協調性 710知名度 711達成感										
大学	大いに当てはまる	352	339	317	328	325	304	290	268	247	148	253
	当てはまる	116	119	128	124	134	137	143	153	164	132	170
	当てはまらない	11	22	32	25	20	37	43	56	62	137	43
	全く当てはまらない	7	6	9	9	7	8	10	9	13	69	20
高校	大いに当てはまる	131	126	123	124	119	116	113	101	92	49	104
	当てはまる	28	27	36	36	34	38	39	40	49	39	47
	当てはまらない	6	11	6	3	11	8	10	16	20	52	10
	全く当てはまらない	1	2	1	3	2	4	4	9	5	26	5
区分	回答	712志望校合713将来像明714仲間との715指導者との716家族との717周囲へ感謝										
大学	大いに当てはまる	224	170	286	203	246	327					
	当てはまる	123	138	162	179	163	131					
	当てはまらない	78	123	31	75	56	18					
	全く当てはまらない	61	55	7	29	21	10					
高校	大いに当てはまる	74	57	107	85	101	118					
	当てはまる	39	43	48	61	40	40					
	当てはまらない	30	46	11	15	19	6					
	全く当てはまらない	23	20	0	5	6	2					
区分	回答	801真面目1 802冷静慎重803優種1 804気が利く1805我慢強い1806負け嫌い807思いやり808気が強い809圧力強2 810はっきり1811さっぱり										
大学	大いに当てはまる	107	67	135	83	134	171	121	94	54	104	98
	当てはまる	213	197	228	209	207	196	242	150	122	158	180
	当てはまらない	131	186	105	164	118	96	105	176	218	176	170
	全く当てはまらない	35	36	18	30	27	23	18	66	92	48	38
高校	大いに当てはまる	36	28	54	32	46	71	51	42	18	33	27
	当てはまる	61	46	77	60	61	61	77	54	30	43	48
	当てはまらない	49	73	27	56	43	20	27	49	69	64	68
	全く当てはまらない	20	19	8	18	16	14	11	21	49	26	23
区分	回答	812のんびり813几帳面1 814頑強堅2 815気分屋1 816集中力2 817飽っぽい818明朗面白819人付き合い820素直1 821おしゃれ										
大学	大いに当てはまる	133	94	93	143	82	112	89	113	135	62	
	当てはまる	196	171	209	209	216	188	180	216	227	126	
	当てはまらない	124	172	155	115	154	156	178	122	101	174	
	全く当てはまらない	33	49	29	19	34	30	39	35	23	124	
高校	大いに当てはまる	50	32	38	44	29	42	48	49	50	27	
	当てはまる	66	51	70	68	81	50	60	70	76	34	
	当てはまらない	31	59	44	41	44	54	39	32	31	58	
	全く当てはまらない	19	24	14	13	12	20	19	15	9	47	
区分	回答	901真面目2 902冷静慎重903優種2 904気が利く1805我慢強い1806負け嫌い807思いやり808気が強い809圧力強2 910はっきり2911さっぱり										
大学	大いに当てはまる	128	79	142	92	107	117	116	101	65	137	98
	当てはまる	180	180	214	192	189	185	221	142	145	96	172
	当てはまらない	119	172	102	155	148	138	118	173	195	61	163
	全く当てはまらない	59	55	28	47	42	46	31	70	81	192	53
高校	大いに当てはまる	35	27	62	42	49	72	56	48	26	59	27
	当てはまる	62	56	65	61	56	55	68	49	29	43	47
	当てはまらない	41	52	23	44	42	28	27	45	61	16	58
	全く当てはまらない	28	31	16	19	19	11	15	24	50	48	34
区分	回答	912のんびり913几帳面2 914頑強堅2 915気分屋2 916集中力2 917飽っぽい818明朗面白819人付き合い820素直2 921おしゃれ										
大学	大いに当てはまる	125	85	97	126	78	90	106	110	101	55	
	当てはまる	184	171	199	176	212	193	184	216	229	134	
	当てはまらない	130	172	154	146	156	159	151	117	117	190	
	全く当てはまらない	47	58	36	38	40	44	45	43	39	107	
高校	大いに当てはまる	46	22	47	41	39	33	72	67	50	37	
	当てはまる	60	63	70	63	73	57	51	58	68	32	
	当てはまらない	33	52	35	42	38	50	30	31	34	49	
	全く当てはまらない	26	29	14	20	16	26	13	10	14	48	

表9.1 クローンバックの α 係数 (本調査時)

			度数	%
問 5	ケース	有効数	652	100
		除外数	0	0
		計	652	100
	クローンバックの α 係数		0.808	
	標準化されたクローンバックの α 係数		0.838	項目数 15
問 6	ケース	有効数	652	100
		除外数	0	0
		計	652	100
	クローンバックの α 係数		0.884	
	標準化されたクローンバックの α 係数		0.886	項目数 21
問 7	ケース	有効数	652	100
		除外数	0	0
		計	652	100
	クローンバックの α 係数		0.923	
	標準化されたクローンバックの α 係数		0.932	項目数 17
問 8	ケース	有効数	652	100
		除外数	0	0
		計	652	100
	クローンバックの α 係数		0.885	
	標準化されたクローンバックの α 係数		0.886	項目数 21
問 9	ケース	有効数	652	100
		除外数	0	0
		計	652	100
	クローンバックの α 係数		0.910	
	標準化されたクローンバックの α 係数		0.911	項目数 21

表9.2 柔道継続を促す要素群一覧

群名	項目	分類	全データのカイニ乗 検定値と有意確率	全データの回帰分 析値tと有意確率	柔道継続者の回帰分 析値tと有意確率
柔道愛好要素群	・柔道が好き		75.992, 2.200e-16	4.394, 1.30e-5	3.433, 6.39e-4
	・練習が楽しい		67.393, 1.548e-14	4.821, 1.78e-6	4.331, 1.74e-5
	・もっと強くなりたい		62.600, 1.635e-13	5.823, 9.06e-9	5.261, 2.00e-7
柔道到達目標要素群	・柔道を活かせる職業に就きたい		60.089, 5.626e-13	4.585, 5.44e-6	3.878, 1.17e-4
	・目標にしている選手がいる		58.840, 1.040e-12	2.687, 7.40e-3	2.072, 3.87e-2
	・出場したい大会がある		53.826, 1.222e-11	3.966, 8.11e-5	3.432, 6.41e-4
	・指導者になりたい		51.634, 3.584e-11	9.249, 2.00e-16	9.316, 2.00e-16
	・目標としているタイトルがある		49.808, 8.776e-11	4.456, 9.84e-6	4.035, 6.17e-5
	・将来像が明確		45.823, 6.185e-10	5.830, 8.75e-9	1.724, 8.52e-2
	・審判員になりたい		28.426, 2.956e-6	6.635, 6.83e-11	6.509, 1.61e-10
	・昇段したい		25.416, 1.264e-5	3.876, 1.17e-4	3.376, 7.83e-4
柔道内的環境要素群	・家族との絆		46.771, 3.888e-10	6.211, 9.41e-10	6.177, 1.21e-9
	・家族が応援してくれる		35.398, 1.004e-7	2.961, 3.18e-3	2.782, 5.58e-3
	・指導者との絆		45.960, 5.785e-10	4.145, 3.85e-5	3.892, 1.11e-4
	・仲間との絆		33.439, 2.602e-7	3.097, 2.04e-3	2.946, 3.35e-3
	・指導者を尊敬している		45.501, 7.240e-10	3.065, 2.27e-3	2.306, 2.14e-2
動機付け要素群	・家族に勧められて		15.258, 1.609e-3	3.711, 2.24e-4	3.696, 2.39e-4
	・家族が柔道をしていた		12.002, 7.375e-3	4.555, 6.27e-6	4.400, 1.29e-5
	・強くなりたかった		11.802, 8.092e-3	2.226, 2.64e-2	2.219, 2.69e-2
	・近所に柔道場があった		11.577, 8.983e-3	1.980, 4.81e-2	1.724, 8.52e-2
柔道覇気明確要素群	・我慢強い (周囲からの評価)		30.244, 1.226e-6	3.544, 4.23e-4	3.064, 2.28e-3
	・負けず嫌い (周囲からの評価)		30.638, 1.013e-6	3.689, 2.44e-4	3.242, 1.25e-3
	・負けず嫌い (自身の評価)		27.142, 5.498e-6	2.613, 9.17e-3	2.330, 2.02e-2
	・プレッシャーに強い (周囲からの評価)		20.299, 1.472e-4	3.623, 3.14e-4	3.279, 1.10e-3
	・プレッシャーに強い (自身の評価)		8.154, 4.294e-2	3.341, 8.82e-4	2.903, 3.84e-3
	・集中力がある (周囲からの評価)		25.319, 1.324e-5	3.549, 4.14e-4	3.015, 2.68e-3
	・集中力がある (自身の評価)		24.222, 2.245e-5	3.946, 8.80e-5	3.438, 6.28e-4
	・気が強い (周囲からの評価)		19.169, 2.522e-4	3.521, 4.60e-4	3.324, 9.42e-4
	・気が強い (自身の評価)		15.322, 1.561e-3	3.631, 3.05e-4	3.468, 5.62e-4

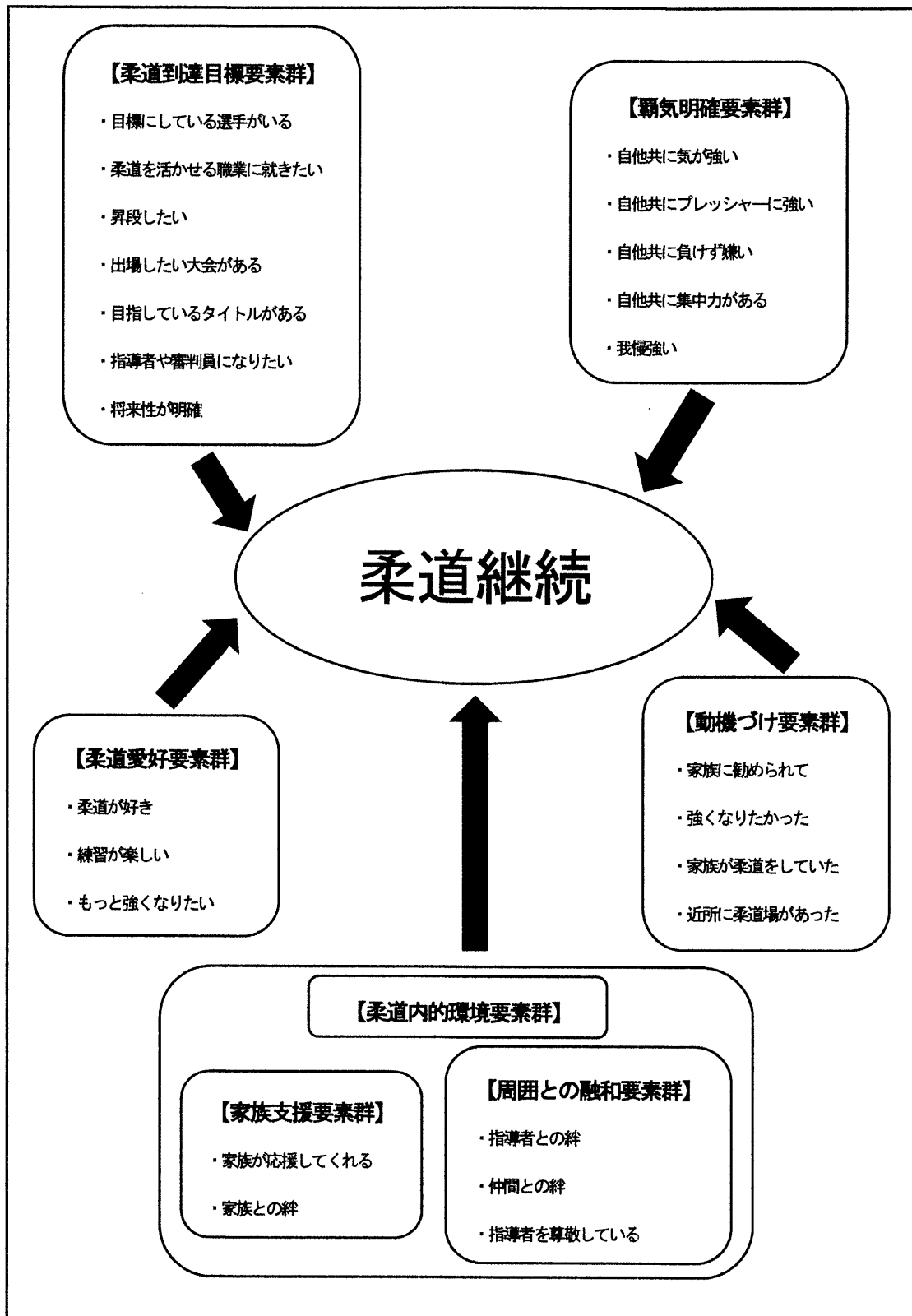


図 9.1 柔道継続を促す要因

【柔道競技継続に関するアンケートご協力をお願い】

順天堂大学 大学院 スポーツ健康科学研究科
博士前期課程 石原 智恵子

このアンケートは、近年問題視されている柔道人口の減少に伴い、現在柔道競技を継続している選手の皆様が、これまでどのような環境で柔道競技を継続して来られたかを問うものです。

私は、頂いたアンケートのご回答などを基に柔道人口減少の原因等についての資料を得ることや、改善策を提案することで、我が国の柔道競技発展に寄与することを目的とした研究に取り組んで参ります。回答情報については、結果の分析及び発表にのみ使用し、当方にて厳重に管理致しますので回答者様の不利益はありません。リラックスした状態で率直にご回答頂ければ幸いです。

以上にご理解頂き、お手数ですが以下の質問に是非ご回答をお願い致します。

※ 以下の質問に対し、該当するものの番号を○で囲んでください。

【問1】 あなたの性別を教えてください。

1. 男性 2. 女性

【問2】 あなたの学年を教えてください。

1. 高校1年 2. 高校2年 3. 高校3年 4. 大学1年
5. 大学2年 6. 大学3年 7. 大学4年

【問3】 あなたは、いつから柔道を始めましたか？

1. 小学校入学前 2. 小学校1年次 3. 小学校2年次 4. 小学校3年次
5. 小学校4年次 6. 小学校5年次 7. 小学校6年次 8. 中学校入学次
9. 中学校2年次 10. 中学校3年次 11. 高校入学時 12. 高校2年次
13. 高校3年次 14. 大学入学時

【問4】 あなたは、どこで柔道を始めましたか？

1. 町道場 2. 地元公立校 3. 地元私立校 4. 学区外公立校
5. 学区外私立校 6. その他 ()

【問5】 柔道を始めた理由について教えてください。

以下の理由に対し、最も当てはまるものの番号に○を付けてください。

	4. 大いに当てはまる	3. 当てはまる	2. 当てはまらない	1. 全く当てはまらない
① 柔道漫画の主人公に憧れて	4	3	2	1
② テレビに出ている有名選手に憧れて	4	3	2	1
③ 柔道着姿に憧れて	4	3	2	1
④ 護身のため	4	3	2	1
⑤ 礼儀作法を身につけるため	4	3	2	1
⑥ 強くなりたかった	4	3	2	1
⑦ 家族が柔道をやっていた	4	3	2	1
⑧ 家族に勧められて	4	3	2	1
⑨ 柔道をやっている友達に誘われて	4	3	2	1
⑩ 柔道をやっている友達の試合を見て	4	3	2	1
⑪ 体格が良かったため指導者から勧誘された	4	3	2	1
⑫ 何らかの運動部に入りたかった	4	3	2	1
⑬ 近所に柔道場があった	4	3	2	1
⑭ ダイエットのため	4	3	2	1
⑮ 将来進学や就職の役に立つと思った	4	3	2	1
⑯ その他 ()				

【問6】 柔道を続けている理由について教えてください。

以下の理由に対し、最も当てはまるものの番号に○を付けてください。

	4. 大いに当てはまる	3. 当てはまる	2. 当てはまらない	1. 全く当てはまらない
① 柔道が好き	4	3	2	1
② 練習が楽しい	4	3	2	1
③ もっと強くなりたい	4	3	2	1
④ 体型維持のため	4	3	2	1
⑤ 指導者を尊敬している	4	3	2	1
⑥ 仲間同士の関係が良い	4	3	2	1
⑦ 家族が応援してくれている	4	3	2	1
⑧ 柔道を活かせる職業(例:警察官、柔道整復師等)に就きたい	4	3	2	1
⑨ 既に進学先や就職先で柔道を続けることが決まっている	4	3	2	1
⑩ 目標としている選手がいる	4	3	2	1
⑪ 目指しているタイトルがある	4	3	2	1
⑫ 出場したい大会がある	4	3	2	1
⑬ テレビや新聞、雑誌などに出たい	4	3	2	1
⑭ 海外で柔道振興に関する仕事がしたい	4	3	2	1
⑮ 指導者になりたい	4	3	2	1
⑯ 柔道場を開業したい	4	3	2	1
⑰ 審判員になりたい	4	3	2	1
⑱ 昇段したい	4	3	2	1
⑲ 柔道競技というより「形」を極めたい	4	3	2	1
⑳ スポーツ推薦で入学したから	4	3	2	1
㉑ 一度始めたものを途中でやめたくない	4	3	2	1
㉒ その他 ()				

【問7】 柔道を通して得たものは何ですか？

以下の事柄に対し、最も当てはまるものの番号に○を付けてください。

	4. 大いに当てはまる	3. 当てはまる	2. 当てはまらない	1. 全く当てはまらない
① 筋力	4	3	2	1
② 体力	4	3	2	1
③ 持久力	4	3	2	1
④ 忍耐力	4	3	2	1
⑤ 精神力	4	3	2	1
⑥ 粘り強さ	4	3	2	1
⑦ 向上心	4	3	2	1
⑧ 積極性	4	3	2	1
⑨ 協調性	4	3	2	1
⑩ 社会的知名度	4	3	2	1
⑪ 達成感	4	3	2	1
⑫ 志望校へ進学できた	4	3	2	1
⑬ 将来像が明確になった	4	3	2	1
⑭ 仲間との絆	4	3	2	1
⑮ 指導者との絆	4	3	2	1
⑯ 家族との絆	4	3	2	1
⑰ 周囲への感謝の気持ち	4	3	2	1
⑱ その他 ()				

【問8】 あなたは自分自身をどのような性格だと思えますか？

以下の性格について、最も当てはまるものの番号に○を付けてください。

	4. 大いに当てはまる	3. 当てはまる	2. 当てはまらない	1. 全く当てはまらない
① まじめ	4	3	2	1
② 冷静・慎重	4	3	2	1
③ 優しい・穏やか	4	3	2	1
④ 気が利く	4	3	2	1
⑤ 我慢強い	4	3	2	1
⑥ 負けず嫌い	4	3	2	1
⑦ 思いやりがある	4	3	2	1
⑧ 気が強い	4	3	2	1
⑨ プレッシャーに強い	4	3	2	1
⑩ はっきりしている	4	3	2	1
⑪ さっぱりしている	4	3	2	1
⑫ のんびりしている	4	3	2	1
⑬ 几帳面	4	3	2	1
⑭ 頑張り屋	4	3	2	1
⑮ 気分屋	4	3	2	1
⑯ 集中力がある	4	3	2	1
⑰ 飽きっぽい	4	3	2	1
⑱ 明るい・おもしろい	4	3	2	1
⑲ 人付き合いがいい (社会的)	4	3	2	1
⑳ 素直	4	3	2	1
㉑ おしゃれ	4	3	2	1
㉒ その他 ()				

【問9】 あなたは周囲の人からどのような性格だと思われると思いますか？
以下の性格について、最も当てはまるものの番号に○を付けてください。

	4. 大いに当てはまる	3. 当てはまる	2. 当てはまらない	1. 全く当てはまらない
① まじめ	4	3	2	1
② 冷静・慎重	4	3	2	1
③ 優しい・穏やか	4	3	2	1
④ 気が利く	4	3	2	1
⑤ 我慢強い	4	3	2	1
⑥ 負けず嫌い	4	3	2	1
⑦ 思いやりがある	4	3	2	1
⑧ 気が強い	4	3	2	1
⑨ プレッシャーに強い	4	3	2	1
⑩ はっきりしている	4	3	2	1
⑪ さっぱりしている	4	3	2	1
⑫ のんびりしている	4	3	2	1
⑬ 几帳面	4	3	2	1
⑭ 頑張り屋	4	3	2	1
⑮ 気分屋	4	3	2	1
⑯ 集中力がある	4	3	2	1
⑰ 飽きっぽい	4	3	2	1
⑱ 明るい・おもしろい	4	3	2	1
⑲ 人付き合いがいい（社交的）	4	3	2	1
⑳ 素直	4	3	2	1
㉑ おしゃれ	4	3	2	1
㉒ その他（				）

【問10】 今後も柔道を続けたいと思いますか？

1. いいえ 2. はい

【問11】 問10で、2. と答えた方は、少なくとも何年くらい続けたいですか？

（ ）年くらい

※ 質問は以上です。ご協力ありがとうございました。
